



安達 真由美

所属・職名 大学院文学研究院・心理学研究室・特任教授

略 歴 昭和 58 年 新潟大学教育学部卒業

平成 元 年 コロンビア大学ティーチャーズカレッジ音楽専攻修了
(M.A. in Piano Pedagogy & M.Ed. in Music Education)

平成 7 年 フシントン大学大学院体系的音楽学科博士課程修了
(Ph.D. in Psychomusicology)

平成 8 年 トロント大学発達心理学センター博士研究員

平成 10 年 山梨大学教育人間科学部助教授

平成 14 年 北海道大学大学院文学研究科助教授 (平 19 より准教授、平 25 ～現職)

【音楽心理学、演奏心理学、音楽発達心理学】

音楽は様々な形で私たちの日常に存在している。クラシックの演奏家や愛好者にとっては芸術を表現・享受するための一媒体であるが、青年期の若者にとっては個人や集団のアイデンティティを象徴するものであり、経済活動においては消費者行動を操作するために用いられることもある。また、音楽は幼児にとっては遊び道具の一つであり、乳児を持つ親にとっては子どもとの愛着を育むための一手段である。このように、音楽はそれと関わる人や文脈によって多様な機能があるため、人間の音楽行動を研究対象とする場合には、現実世界における意味を常に意識する必要があると考えられる。

そこで私の研究室では、研究対象となる音楽に関する現象や問題を、できるだけ生態学的に妥当な方法で検証するよう努力している。例えば、1歳半の子どもが一人で遊んでいる時に音楽がどのような影響を与えるのかを調べる場合、初めて訪れる実験室よりも普段遊んでいる環境で観察した方がデータの妥当性は高くなる。

具体的な研究例として、演奏に関する研究を2点紹介する。まず、楽曲に対する演奏者の解釈が聴取者に伝わるかどうかを検討するために、私の研究室ではプロのピアニスト13人がそれぞれ30人程度の聴衆を前に演奏するというコンサートを設定し、ライブ演奏での各曲に対する印象と、その演奏を録音したCDをコンサートが行われた会場で10週間後に聴いた際の各曲に対する印象を比較するという実験を行った。その結果、全ての曲において、ライブ演奏の方がライブ録音よりも「より芸術的」かつ「より感情豊か」で、「より演奏者の意図したニュ

アンスに近い感情的印象」を聴衆が持つことが明らかになった(図1)。

また、初めての楽譜を練習せずに演奏する初見視奏のメカニズムをピアノの初心者と上級者で比較するために、演奏音のタイミングと眼球運動を測定した。その結果、初心者であっても演奏している音よりも先を見ることが確認されたが(図2)、先読みの範囲(視手範囲)は上級者の1.7拍に対して初心者は約0.5拍であり、初見視奏における上級者の情報処理の効率性が実証された。一般に、初見視奏能力は一般的な演奏能力とは別物と考えられており、今後は、初見視奏能力の違いを視手範囲のような行動指標だけではなく、脳活動とも合わせて検討していく必要があると考えている。

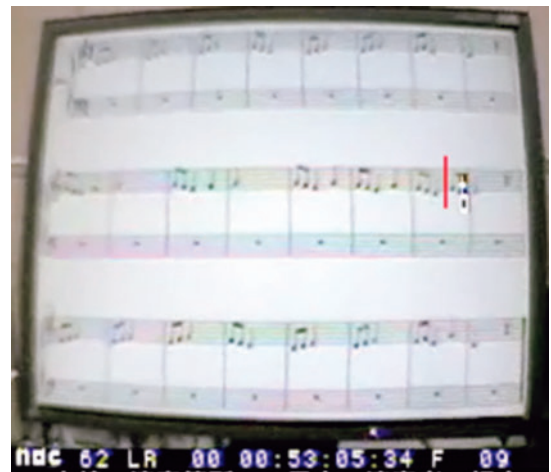


図2 初心者の初見視奏時の固視の位置(+)、Oと演奏している音のタイミング(赤い線)

2019年～現在(2024年5月)の主な研究業績

- 1) Kusanagi, E., Takamura, H., Hoshi, N., Chen, S.-J., & Adachi, M. (2023). Levels of toxic and essential elements and associated factors in the hair of Japanese young children. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 20, 1186. doi.org/10.3390/ijerph.2002.1186
- 2) Jing, Q., & Adachi, M. (2022). The influence of modality on input, visuo-motor coordination, and execution in the advanced pianist's sight-reading processes. *Frontiers in Psychology: Performance Science*, 13, 933106. doi: 10.3389/fpsyg.2022.933106
- 3) 張 旭穎・安達真由美 (2021). 聴取者からみる演奏表現の芸術性：時間的次元における検討-2. 日本音楽知覚認知学会 2021 年度秋季研究発表会資料 (pp. 39-42).

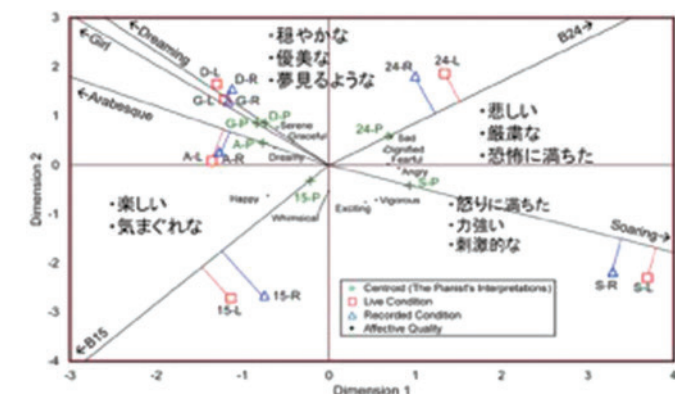


図1 ピアニスト(13人)の各曲に対する感情的解釈(+)と聴衆(211人)の印象。原点と+を結ぶ直線が各曲を示し、直線上の赤い□がライブ演奏に対する印象を、青い△がライブ録音に対する印象を表している。原点から離れれば離れるほど聴衆の印象がピアニストの解釈に近いことを意味する。